

健康観察による感染予防と早期対応

対応のおおまかな流れ（7：50～8：20）

登校した生徒から行う。（1m 程間隔を開けて、並ばせる。）
昇降口でアルコールの手指消毒をした後、学年別に違うルートを通る。
その途中で、学年職員で健康チェックリスト表の確認を行う。

〔健康チェックリスト表確認〕 記入・印漏れ・発熱・風邪症状の確認

記入・印漏れなし

持参忘れ、記入・印漏れあり

学年職員が検温・健康チェックを行う。
※ 保護者へ翌日からの持参依頼。

発熱・風邪症状の確認

発熱・風邪症状なし

発熱・風邪症状あり

※ マスクをして、静かに教室で過ごす。

（ソーシャルディスタンス）

別室で対応する

早退措置を検討

消毒を行う

① 朝の健康観察の結果の集約

- ・ 欠席者及び遅刻者を把握し、その理由を確認する（保護者からの欠席連絡等。）
朝の健康観察の結果を管理職が集約し、校・園内での感染を早期に把握する。

② 発熱者（感染の疑い者）への別室対応

- ・ 活動中、発熱等の風邪症状が見られる場合には、検温を行うとともに、必ずカウンセリング室等の別室で休養しながら、早退措置を検討する。

※早退となった児童生徒等が休養のために使用した椅子や枕、布団類については、椅子については消毒を行い、枕や布団類については、洗濯可能なものは洗濯を行い清潔に保つ。

※体調不良の児童生徒等へ対応する際には、マスク等を使用し、2次感染に留意する。